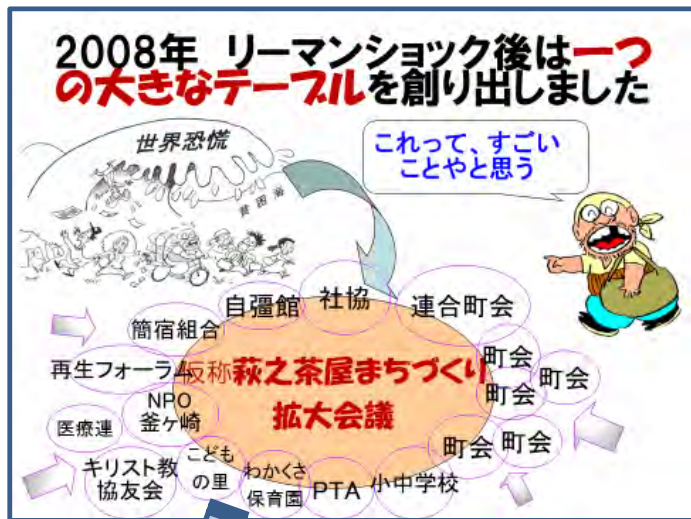




釜ヶ崎(あいりん地域)まちづくり経過



ここは不信と対立の街でした

1961年以降、暴動は24回

日雇い労働者一人一人は孤独と一匹狼意識

町会世界
あきらめと無力感
支援団体への反感

労働者世界
支援団体間の対立と不信

簡易宿泊所 経営者世界
地域への無関心
力ネもつけ主義との批判

共通するのは行政への不信感

お互いの違いを超えて、協働の動きが始まりました

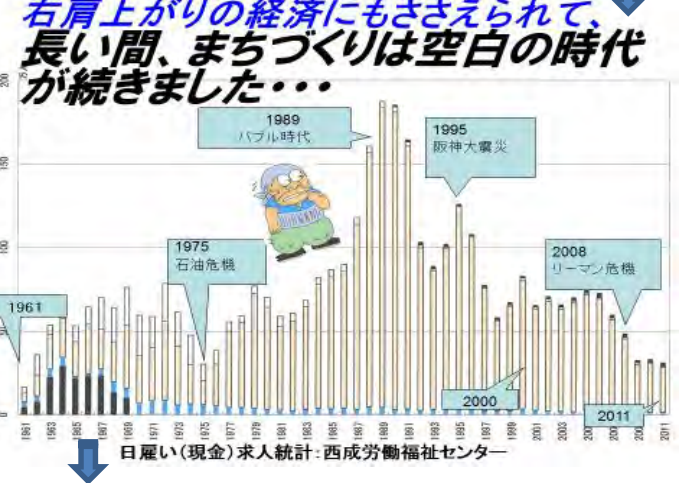
★35年ぶりの公園開放で「子どもスポーツひろば」実現

＜例＞子供重視の考え方を共有し始めた

★防災・覚醒剤で申し入れ活動に25団体が協賛。地域内パレードも連続実施

★10年、20年後のまちのビジョンづくり(要望書づくり)が始まった

拡大会議はさらに多くの団体の協力と参加を期待しています

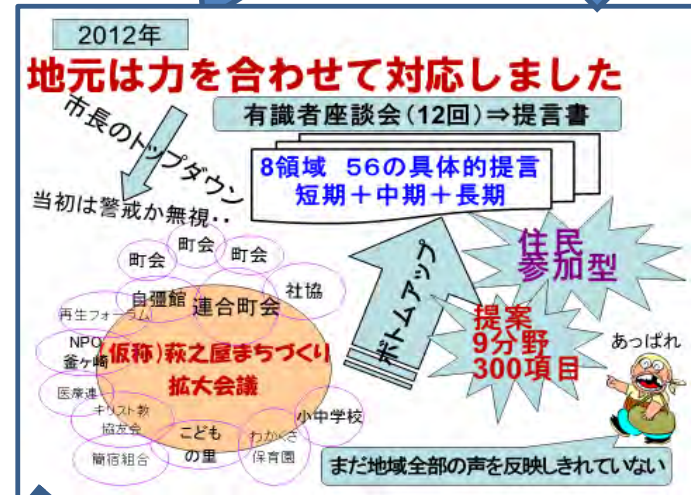


そこへ西成特区構想がやって来たのです!

しかし、どん詰まりの中で反転が始まったのです!

I 期 1999～2008年(まちづくり黎明期)
II 期 2009～2011年(リーマンショック対応期)
III 期 2012年～(西成特区構想対応期)

住民団体をはじめ労働者支援団体も、政府も、地方自治体(大阪府や大阪市)も、それぞれに対策を開始しました。衝突も協働もありました。



1999年からはコペルニクスの転回でした ⇒さまざまな団体・ネットワークが誕生した

民間の動き

- (連合大阪のシンポジウム)
- NPO 釜ヶ崎支援機構(仕事づくり)
- わいがや会(まちづくり)
- 釜ヶ崎のまち再生フォーラム(まちづくり)
- さつきつじ会など(自助組織)
- 医療・福祉・介護NPOs
- NPO サポートハウス連絡協議会
- 萩ノ茶屋第6町会(2002年)
- NPO 釜ヶ崎の在宅生活を支えるネットワーク

行政の動き

- 紙芝居グループ「むすび」
- NPO ココローム(2003)
- 社会福祉法人 釜ヶ崎ストロームの家(2004)
- ホームレス自立支援センター
- ホームレス自立支援法制定(2003)
- ホームレス就業支援センター(オール大阪シフトで)

大阪府大・西成プラザ(2006) 萩之茶屋小・今宮中周辺まちづくり研究会

その会合は、役所や各町会、労働団体まで約30団体も集まるって、ほんまか!?



突然、登場→

ほんまや! 2014年9月~12月に集中開催やと。すごいチャレンジやろ? 住民の力と知恵でここまでもってきたんや。

当然、疑念の声もあります

あんだだけの監視カメラ要らん

貧乏人が追い出されるんやないか

やっぱり役所が勝手に決めるんやないか

ガス抜きちゃうんかい

議論の時間が足りん。住民が政治と行政の予算編成のスケジュールに合わされることが混乱の根源



だからこそ、みんなできっちり議論することが大事や。文句も言うけど、提案もしようや。寄り道をなくさないことは決定済み

「この街にある良い面を伸ばす発想が大事」
⇒これは今までの議論の中で共有できています。



釜ヶ崎夏祭り



たそがれコンサート



世間の偏見と違って、良い面がたくさんあります。たとえば? 気さくさ・寛容性・フコロの深さ・竹のような打たれ強さ……いっしょに考えてみると楽しい。

老いたカマヤんの願い



ここでみんな力を合わせて、西成をすばらしいふるさとにしようよ。新しいふるさとづくりや。



貧困地域改善の西成モデルができるか、日本中が注目

報告書具体化の手法はこうです(2014~2018)

⇒(行政と地域住民で) エリアマネジメント協議会を創設(2013年)



それぞれが住民・支援団体・有識者・公共団体等で構成

課題: 地域の隅々から、さらに徹底したボトムアップが必要

具体化された取り組み事例

① ひと花プロジェクト

(正式名称) 単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり支援事業
聴き取り調査⇒大きな効果が見えてきている



ワシも参加したい



特区構想をさらに活用するため

住民側は⇒まちづくり合同会社(LLC)も起ち上げました(2013年秋)

現在実施中の事業

- 不法ゴミ投棄抑制パトロール&回収(2014年~)
- (地域日雇い労働者や生活保護受給者を毎日11人雇用)



今後の事業

- ウォール・アート・プロジェクト
- 空き家・空き地活用支援事業
- 簡宿のエアコンのクリーニング事業
- 各種調査・研究事業

特長: 何か事業をやりたい人は特打ち込み実施可能!
課題: 人材、特に若い人の確保&育成(⇒人材バンク)

特区構想具体化事例②
これもワシらには助かつとる



あいりん総合センター&周辺まちづくり会議
(正式名称: あいりん地域のまちづくり検討会議)

1960年代と違って、住民団体や労働者支援団体を協議に加えるよう強く要望し、実現させたものです。



どのみち耐震強度不足で建替問題は起きていた

水内俊雄教授提供資料



周辺一帯も見直すこの会議がいよいよ9月から始まる!